

9  
1999.5

# 薬友会報

千葉大学薬友会

西千葉キャンパスの正門に近く、平成7年に開館した「けやき全館」は櫟の大木が茂るキャンパスのシンボル的な建物です。講演会、シンポジウムなどが連日のようにホールで開かれ、大小の会議室も学内で盛んに利用されています。1階には洒落たレストランもあります。西千葉キャンパスを訪れる折にはぜひご利用下さい。



学生実習は、昔も今も変わることなく薬学部教育の中で重要な位置を占めています。長年使用してきた実習室も、薬学部の発展と共に新しい研究室、あるいは大型機器による測定室に生まれ変わり、今では大小2つを残すのみになりました。この写真は、昨年度末に実験台、流し一式を全て入れ替え、内装も新しくなった2号館1階の大実習室における、年度最初の3年生実習風景です。

会長退任にあたって	2	石井永元教授の御逝去	15
薬友会会長就任にあたって	2	ドレスデン300日	15
専攻長退任あいさつ	2・3	薬友会より	16
新任教授紹介	3	学部だより	17
新任教授紹介	3	卒業生の進路・	
特集（千葉薬学生の生活と気質）	4・5	薬学部入学者出身一覧	17
研究室紹介	6	最近の薬剤師国家試験について	17
クラス通信	7~13	学会賞受賞者・主催学会一覧	18
支部だより	13	学位授与者一覧	18・19
亥鼻会・みのはな山岳会	14	職員の異動	19
サークル紹介（華道部）	15	生涯教育セミナー開催のお知らせ	20

## 会長退任にあたって

今成登志男



激動期の学部長、2年間の任期は厳しすぎるでの、まあ身体の続く限りと思って引き受けましたが、遂にゴールまで辿りつけたのは、偏に周囲の方々のご支援の賜と心から感謝申し上げます。

社会全体の変貌・改革が一段と進み、大学にも変革の嵐が吹き荒れる中、国立大学の独立行政法人化の波も襲ってきました。平成7年に作成された千葉大学マスタープランは運にも恵まれて、西千葉地区キャンパスの充実には大きく貢献しています。しかし、亥鼻地区キャンパスへの移転という流れに乗った薬学部は、バブル経済崩壊後の混乱に直面することになりました。今日に至って、薬学部はこの難局を打破するため、改めて全学の協力を要請しなければならない状態になっています。一方、旧帝國大学系の大学に倣って重点化（大学院大学）に進む新制大学間の競争も激化しており、本薬学部も医学部と連携して医薬学研究科とする新構想が急浮上しています。薬学の社会的認知と期待は、医療薬学だけでなく、環境衛生、創薬化学面でも益々増大しており、我々はそれに十分応え得る体制づくりに配慮すべきであります。現状は混沌として五里霧中ありますが、小規模の学部故、職員が一丸となり、独自性を失わないために自らの手で改革を推進する時が到来しています。今年11月には千葉大学創立50周年式典が催されますので同窓生の皆様のご協力をお願い致します。

## 薬友会会長就任にあたって

五十嵐一衛



本年度5月1日より薬学部長に就任したため、自動的に薬友会会長を務めさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

光陰矢の如しと申しますが、私が千葉大学薬学部を卒業しましてから、既に35年経過致しました。その間、いろいろな形で薬友会と関わり、薬友会が同窓生の心の拠りどころとなるには如何にあるべきかを考えて参りましたが、未だ自分としては明確な答えを得ておりません。再び薬友会と関わることになりましたので、もう一度薬友会について考えてみたいと思っています。薬友会報の発行は今回で9回目を数えますが、同窓生の皆様に薬友会を身近なものとして感じていただくためには、とても素晴らしい企画であったと思っております。今後薬友会報がさらに充実したものになることを切望しております。

国立大学は新制大学発足後既に50年経過したことと、国家財政の悪化により、変革を迫られています。新聞紙上でも、意味を正確に捉えきれない“独立行政法人化”とか“大学院重点化”という文字が躍っています。21世紀に向け、我が薬学部の将来をより良いものにするために、いろいろ知恵を絞る必要があります。薬友会会員の皆様からもいろいろ素晴らしいアイディアをいただけたらと思っております。御支援の程お願い申し上げます。

## 専攻長退任あいさつ

総合薬品科学専攻長

中川 昌子



今年も薬草園の桜は美しく開花し再び春爛漫のとき、4月8日の入学式を迎える。大学の中は活気を呈してきました。千葉大学大学院薬学研究科に2専攻（総合薬品科学専攻と医療薬学専攻）が設置されて早2年が過ぎ私の任期も終わりました。皆様のお力添え有難うございました。10年度の大きな問題の一つは大学改革の一環として、大学院組織の見直しについてでした。一方、この4月より総合薬品科学専攻には新たに荒野泰教授（放射性薬品化学II）を迎えて、教授陣は

総勢15名となりました。分子医薬科学、生命環境薬学、総合薬品科学特論科学などの講義と共に最先端の研究指導など更に充実した教育と研究に意欲をもやしています。来る21世紀新しい医薬品開発を目指して、分子精密創薬科学的視点に立脚した総合的な創薬に関する教育と研究の高度化を推進しております。この研究科の卒業生の皆様のご活躍を期待し、また素晴らしい薬が将来本研究科の卒業生の手によってつくられることを夢みています。

### 医療薬学専攻長 矢野 真吾



千葉大学大学院薬学研究科に医療薬学専攻が発足して2年が経過しました。新制度のもとで、6ヶ月の医療薬学実務実習を終え、それぞれ研究論文を提出し、初めての博士前期課程（修士課程）修了生が8名誕生しました。修了学位の名称は修士（臨床薬学）であります。

その後の進路は医療機関（薬剤師）、製薬会社、公務員、大学（進学を含む）など様々であります。第1回修了生のこれから実社会における活躍が楽しみであります。なお今後、ますます病院などの医療機関に就職を希望する学生が増えてくると思われます。どうかその点では、関連する皆様の一層の応援を期待しております。

医療薬学専攻は現在、学年進行で完成中であり、どんどん学生数が増えています。本年度から医療薬学専攻には、新たに博士後期課程の1年生9名（学生定員は8名）が加わりました。なお、医療薬学専攻博士前期課程には現在53名（1、2年次合わせた学生定員は36名）が在籍しております。当初、医療薬学を目指す優秀な大学院生がどのくらい集まるかが心配でしたが、現在のところ幸いにもこの心配は杞憂に終わっています。教育システムとしてはなお現在、試行錯誤を重ねて内容の充実を図っております。これからもずっと、若い人を惹きつける魅力をもった研究科であり続けたいと願っています。

### 新任教授紹介

#### 放射性薬品化学講座 荒野 泰



平成11年4月1日より細胞生物学の後に開設されました放射性薬品化学講座を担当させていただきました。本誌面をお借りいたしまして、千葉大学薬友会会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、京都大学薬学部を昭和52年3月に卒業後、同大学院の放射性薬品化学講座に進学し、同講座の助手、助教授を経て、現職に就任いたしました。

脳や心疾患、癌などの成人病の分子レベルの診断やその治療薬の創製の基礎となる病態の理解を目的として、これらの疾患機能変化を非侵襲的かつ定量的に画像化する機能性放射性医薬品の創製を行いたいと考えています。また、細胞殺傷性の放射線を癌組織へ選択的に送達する薬剤の設計から、癌の治療に対する新たな可能性についても探究したいと考えています。これらの研究を通して、新しい領域の開拓に微力を注ぐ所存です。本講座に対して、薬友会の皆様の御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 新任専攻長の紹介

中川昌子総合薬品科学専攻長、矢野真吾医療薬学専攻長の任期満了に伴い、平成11年度より総合薬品科学専攻長に鈴木和夫教授（衛生化学）、医療薬学専攻長に堀江利治教授（生物薬剤学）がそれぞれ就任された。（任期一年）

## 特集

# 千葉薬学生の生活と気質

薬学部学生の学園生活や気質について、最近の実態や他学部学生との相違などは多くの会員にとって関心の高いことだと思います。今回の特集では、教員、事務職員、大学院生の皆さんから率直な感想を述べて頂きました。

## 千葉薬学生の印象



千葉大学薬学部教授 石橋 正己

北大で7年半また千葉大で現在約1年半、薬学部の学生の皆さんとおつきあいしていますので、そういう立場から感想を述べよとのご依頼を受けました。以下に記すことは私の個人的な感想であり、見方が片寄っているかもしれません、ご容赦下さい。

1) 北大的学生は、出身地が様々であるからかもしれません、いろんな人がいました。北大は、素朴というイメージですが、千葉大は首都圏であるためか、やはり私には都会的な人が多いように見えます。千葉大は粒ぞろいという感じです。

2) 千葉大では講義のときに私語が多いです。北大でも最初は騒いでいますが、先生がしゃべりはじめたらすぐ静かになります。質問する人については、最近では北大でもあまり多くなかったですが、試験の前には研究室にまで来て、問題を聞き出そうとする人が時々いました。千葉大でもたまに研究室に質問に来ますが、普段講義室でももっと増えていいと思います。

3) 北大薬学部の前にいくと、全研究室が深夜まで電気がついています。回りの建物の多くは早々と電気が消えています。薬学部の学生はよくはたらきます。千葉大の学生も実力はそなえていると思いますので、もっと「野望」をもってほしいと思います。もっとやれるんだけど、何もそこまで必死になんなくてもいいじゃん、という雰囲気がないでしょうか？（これは千葉に限ったことではなく、ただ私が年を取っただけのことかもしれません。でも）そんなことないと反発する学生さんが大勢いることを期待します。千葉大を優等生のためのお手軽な国立大学にしてはだめだと思います。

## 最近の千葉薬学生

千葉大学薬学部助教授（昭和53年卒）戸井田 敏彦

20数年前私たちが大学進学を考えるとき、理系文系どちらに進むかをまずはじめに決め、次に自分の学力と各大学の難易度を比べ、浪人覚悟で挑戦するかあるいは妥協点、すなわち志望校を決めたように思います。将来の目的をはっきり持って、懸命に勉学に励む友人を横目で見ながら、自分の将来は大学に行ってから決めて遅くないなどと嘆いて、入学後も無駄に時を過ごしていたことを思い出します。幸か不幸か今は薬学教育・研究の面白さに惹かれ、若い人たちと毎日楽しく充実した日々を送っていますが、最近いくつか感じたことがあります。私も含めて大学時代の友人達は『研究をやりたい』『教職に就きたい』などと将来の希望を熱っぽく語っていたものでしたが、最近の学生達が進路を決める場合に、『これだけはやりたくない』『こういう企業には行きたくない』という発言を耳にする場合が多いように思います。時代背景が大きく違うと言ってしまえばそれまでですが、『先進国の仲間入り』という社会全体に明確な目標があった時代は、大学教育もおのずから科学技術の向上、自然科学研究の発展を目指していました。現在は大学に対する社会の要求も具体化し、その存在意義を問われはじめています。時代の流れに逆らうことはできないとは知りつつ、千葉薬がいつまでも将来の夢を語り合える場であり続けることを希望して止みません。

## 学務係の窓口から

学務係主任 大江 千春

3年間学務係の窓口で学生達と接して印象的な事は、先生方との関係が非常に親密であり、学生相互の関係も良好だという事です。全体的におとなしく、気持ちの優しい学生が多いという事も感じます。特に学生達の様子に変化が見られるのは、4年次になり、各研究室に配属されてからです。窓口での態度も礼儀正しく、明確に自分の意志が伝えられるようになります。同じ学生かと驚かされる事も度々です。研究室での先生方の公私にわたるご指導の程が伺える時もあります。更に病院実習を経験した後は、感想を聞きますと、異口同音に人の命を預かる薬剤師の仕事のむずかしさ、大切さと共に自分自身の勉強の足りなさを感じたという頗もしい答が返ってきて改めて成長に目を見張る思いがします。薬学部で過ごした日々を忘れず、必ず薬学界で活躍してくれる事を信じております。

## 院生から見た千葉薬学生

博士前期課程二年 鈴木 淳

学部生時代「薬学部です。」と自己紹介したときに、「薬学部ってどこにあるの？」とよく聞かれました。千葉大学に入ってくる新入生の数はどの学部よりも少ないのも事実ですが、寂しく感じられたのを思い出します。

他学部（医・看護学部は除く）と大きく違う点は、まず学部1年生から学ぶ専門科目の多さにあります。自然と授業で顔を合わせる回数が増えるため薬学部内の人たちとの交流が多くなり、人数が少ないと加わって、高校のクラスの延長のようになってしまいます。専門科目の多さ故に、うまく時間が合わないのか、それとも内気なのか、薬学部の学生は他学部との交流が少ないようになります。2年生になると専門科目はさらに増え、3年生になれば午前は講義、午後は実習と、自然と学部内にとじ込められてしまいます。生活もその授業カリキュラムに合わされたものとなり、世間一般に言われている大学生のように、「授業出ない」「遊んでばかりいる」という見方は、全く通用しません。そんな生活の中でも、自分が勉強以外にやりたかったことをやってのけてしまうようになります。与えられた環境に自分を対応させ、相反する自分がやりたいこともやってのけてしまう。好（高）効率という言葉よりも、まさに、千葉薬学生の気質は「うまさ」という言葉に、凝縮されているように感じます。

### あなたの悩み事は誰に相談しますか？

千葉大学ではアンケートによる学生生活実態調査を隔年に実施して、学生指導の改善に役立てています。最近の調査項目の一つでは、約60%の学生が、現在困っていることや悩んでいることが「ある」と答えています。次の調査結果は悩みの相談相手として学生が選んだ回答です。親しい友人が圧倒的に多く、教員や大学が設けた相談窓口はほとんど利用されていません。

悩みの相談相手	人数	%
父	33	( 3%)
母	91	( 9%)
兄弟姉妹	51	( 5%)
祖父母	1	
親しい友人	686	( 67%)
先輩知人	62	( 6%)
学生相談委員の先生	0	
大学の教員	3	
保健管理センターのカウンセラー	5	
その他	85	( 8%)
無回答	6	
合計	1,025名	

# 研究室紹介

医薬品情報学研究室



薬物治療学研究室



当講座は、平成9年4月に開設された本学大学院薬学研究科医療薬学専攻の基幹講座の1つとして誕生した新しい講座で、平成11年3月に初めての博士前期課程修了者4名を社会に送り出したところです。2年前に教授と助教授1名ずつに博士前期課程4名の計6名で始まった当講座も、平成11年4月現在で、上田志朗教授、望月真弓助教授、山形真一助手の3名のスタッフと、博士後期課程1年3名、博士前期課程2年6名、1年5名、学部4年4名および千葉県費留学生1名の総勢22名という大所帯に成長しました。

医薬品情報学は全く新しい学問領域であり、医薬品を構成する最も重要な要素である医薬品情報の創出から活用までを取り扱う学際的な教育・研究分野です。当講座では医薬品情報の創出という側面からは、漢方薬による薬剤性腎障害の発生機序と治療法に関する研究、血液透析施行時や癌化学療法時の薬剤至適投与法設定法に関する研究などを行っています。さらに医薬品情報の解析・評価・活用の面から、医薬品情報の評価・解析法の標準化に関する研究、新医薬品の評価情報データベースの構築、発現職器別副作用分類の限界と新しい副作用分類体系の構築、広域ネットワークによる発生源からの医薬品情報収集・提供システムの構築などを研究しています。

以上のように、当講座は医療薬学専攻の基幹講座として常に臨床を意識し、「医薬品情報が患者に役立つものであるためには」という視点からの研究を行うことに努めています。

(望月 真弓)

平成9年4月1日、大学院薬学研究科の中に医療薬学専攻が新たに設置されました。このとき私達の研究室も同時に誕生しました。最初は教授1人、助教授1人、大学院博士前期課程1年生3人の総勢5人という小さな研究室で出発しました。その2年後、平成11年度4月には助手1人がスタッフに加わり、学生の方も博士後期課程大学院生2人、博士前期課程大学院生10人、4年生4人の総勢19名の構成となり、薬学部でも中規模の研究室となりました。一方、入れ物としての研究室のスペースは小さいままなので、「何とかもう少し広く」と嘆願しているところです。また、研究用の機器が全くない中で出発しましたので、周りの研究室の協力を得ながら、新しい研究テーマに意欲的に取り組もうとしています。

私達の講座設立の最も大きな理由は、クスリを使う立場の専門家教育をより強化しようということにあります。医療の担い手としての薬剤師もそれにふさわしい実力を持つことが必要となりました。また、高い研究能力を持つことも薬剤師サイドの問題解決を図るために必要となります。

私達の講座では、治療に使う薬剤がどんな特徴を持って効くか、また、どんな副作用が現われやすいかなどを比較研究しています。当面の研究課題として、生活習慣病に頻用される薬剤の併用により起こる薬物治療上の諸問題や、薬効安全性評価における動物代替モデルの開発、漢方の薬効解析などに焦点を当てて研究を展開しています。

(矢野 真吾)

## クラス通信

### 昭和9年卒業（昭九会）

月日の経つのは早いもので、卒業してから65年になってしまった。昨年は又、一人の友を失った。中原誠一君で心から哀悼の意を表する。クラス会を開こうと思っていても段々に出席可能な人が減って行くので昨年も実施できなかったのが残念。今年は集れる者だけでも集ろうと考えているのだが、さて、どうなることか。いずれにしても元気なうちに会いたいものである。

（中村 見蔵）

### 昭和13年卒業（亥丘会）

1. 10. 2. 6 竹内、9. 26 鈴木（英）、10. 30 森戸の3君が相次いで亡くなった。ご冥福を祈る。
2. 卒後60周年記念総会を5月22日開催、飯豊、泉、内田、坂本、中込、矢橋、吉田、藤沢の8名出席、藤沢、中込の2名が後任幹事となった。
3. 田中君の上京の機会に臨時クラス会を4月5日に東京新宿で開催する。

（藤沢 栄一）



### 昭和15年卒業（二六会）

昨年末に「寄せ書き」を募集したら、15名（約71%）



岩城製薬株式会社

〒103-8434 東京都中央区日本橋本町4丁目8番2号  
電話 03(3241)3210(代)

の投稿があった。早速コピーして全会員に配布した。高血圧を始め失眼、白内障、糖尿病、尿酸、自律神経失調症、車椅子生活などと多いこと。そうだろう79～80才になったのだから。「これからは寝たきり老人が増えていく。平均寿命以下で死んだら表彰すれば」「平均寿命とは、そこまで生きたら覚悟しろということ」という文章（大往生より）を思っていた。

（石丸 正美）

### 昭和16年3月卒業（一葉会）

平成10年度の歩み

11月10日浜名湖観光ホテル開春楼にてクラス会開催。海老沢、重久、秋山、大沼、今村、望月、大石（敏）、木俣、向井、9名集まる。

翌11日、浜名湖を周遊して、散会。

3月2日 滝本友信

6月7日 大石秀夫

12月20日 新田稔甫の3君が逝去。

ご冥福を祈ります。

（向井 廣澄）



### 昭和16年12月卒業（宣葉会）

今年は卒業58年、戦後の昭和21年から数えクラス会開催は46回、50名卒業の仲間は19名となった。たまたま昨年は幹事の急病で宣葉会を開催せず、誠に申しわけなかった。今年は10月15日の亥鼻会のあとクラス会を開催の予定。70歳代後半の諸兄の元気な顔をそろえ

エーザイ株式会社

〒112-8088 東京都文京区小石川4の6の10  
Tel 03-3817-3700

たい。昨年は10月に大瀬君が天界に旅立ったが、残っている諸兄はぐれぐれも身体に気をつけて、元気で再会をお願いする。

(安田 英夫)

#### 昭和17年9月卒業（翠葉会）

平成10年6月7日、クラス会を上野池之端「蓮風」で開催した。東京の故郷のような町で出席8名は寂しかったが良い料理と美酒を楽しみ、再会を祝った。旅行と病氣で常連欠席は残念だった。訃報、入院中の樋原君が5月に逝去された。ご冥福を祈る。神山君自宅で療養中。丸山君厚生農協に懇願され再々度の薬剤師業おめでとう。

(堤 保二郎)



#### 昭和18年9月卒業（丘ノ上）

年年歳歳花相似、歳歳年人不同。花、クラス会、再会。去年は会えなかったあいつにも今年は会えるかなと楽しみにしてたら、2月／末、訃報が飛び込んだ。滝口太一郎君が亡くなったという。何と言う事だ。甲状腺の癌だという。苦しかったろうな。今はまだ冥福を祈るのみ。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏！ 今年の【丘ノ上】会は、5～6月に開催の予定にしている。皆さんお元気なお顔をおみせ下さい。

(新井 久人)

#### 昭和20年卒業（るっぽ会）

平成10年度のクラス会は、5月30日新宿の中村屋5

人類に価値ある  
新薬づくり、三共



三共株式会社

〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1 ㈹ 03-5255-7111

Fのレザミで開催。出席21名と例年ない大勢の参会で大いに盛り上った。午後の一時を過しました。卒業以来始めて顔を合わせた方もあり、懐旧の情も亦一入。出席した方々の近況報告と、欠席の方からのお便りに、それぞれの日常をうかがう事が出来ました。

本年はその後、8月に鈴木正章君の訃報に接しました。心からご冥福をお祈り致します。

(吉田 富佐男)

#### 昭和22年卒業（臥豚会）

我が臥豚会は漫然幹事の山中・塩崎が多用のため86年以降開いておりません。

飯塚 敏彦（森久保薬品）

井出 敏夫（寺島薬局）

内山 信男（生化学工業）

岡本 光博（光陽堂薬局）

加藤 友二（神田薬局）

小林富治郎（平成9年勲五等双光旭日章）

西顧 弘司（ライオン薬局）

芹沢 恒夫（都薬國保）

中島 良郎（生長の科学）

山中 孝（富士製薬）

山本 強 療養中

吉田 淳懸 コンサルタント

フリック・ケストナー

吉松 功雄 療養中

(塩崎 國夫)

#### 昭和23年卒業

恒例のクラス会を98年4月18日に、新橋の「新橋亭」で開催。出席者は若干の変動があったが今回も16名。二次会は例年通り神楽坂で行ったが、いつにない多数(11名)の参加を得て楽しい会合となった。【出席者氏



大正製薬株式会社

〒170-8633

東京都豊島区高田3-24-1

TEL (03)3985-1111(大代表)

インターネットホームページ

<http://www.taisho.co.jp>

名】青柳高明、伊藤昌弘、井上富夫、大塚享、岡田次男、小沢博義、萱場忠一郎、杉本珪之助、塙本義二、友田正司、中西安治、芳賀功、古橋隆宏、三浦清、安井恒男、渡部吉郎

訃報 98年9月6日 井瀬淳三君 肝臓癌

99年2月24日 原田忠明君 肺炎

上記2君が逝去されました。まことに残念。

ご冥福を祈ります。 (三浦 清)

### 昭和24年卒業

24年度卒のクラス会を昨年10月31日に行いました。今回は少々趣向を変え屋形船を借り切り隅田川ーお台場コースの船中での宴会でした。当日は天候にも恵まれ参加者も17名と比較的多く、午後5時の定刻には全員参集し出航、早速の宴会となり隅田川岸やお台場の美しい景色を楽しみながらの他人入らずの酒は美味で最高の一時を過しました。特に江戸前の天ぷらが美味でした。

(酒井 正嘉)

### 昭和25年卒業

今年のクラス会は秋口、南房総で開催予定。幹事は京葉組。来年は卒後50年。神奈川組のお世話で趣向をこらした大会を計画している。

去年は3月と10月に水野茂実と山内弥三郎の両君が亡くなった。水野は新潟五泉出身。薬局勤務中も療養中もよく薬理学を勉強、調子が戻らないが頑張りたいといっていた。

山内は東京育ち。温厚。薬局を経営、彩管も揮う。ナイアガラの滝の貢献が最後になってしまった。両兄の冥福を祈る。

(鈴木 昭治郎)

### 昭和26年卒業(みのはな会)

毎年4月中旬の木曜日熱海で同期会を開催すること

いのち、ふくらまそう。  
**第一製薬株式会社**

東京都中央区日本橋三丁目14番10号

が恒例となっていますが、(今年は4月15日)集まるメンバーは略同じと云うのが一寸寂しい。而し欠席のメンバーからの、近況報告には、夫々が元気で活躍中と記されているのが多く、昨年も全員が、無事越年出来たことを、喜んで居ります。古希を迎える友が、現在尚第一線で活躍中なのは心強く、尚一層の、御自愛を切に祈る次第です。

(福島 靖)

### 昭和28年卒業(千葉薬二八会)

色々と話題になった私達二八会も、昨年は卒業45周年を迎え、予定通り花の4月、亥鼻台の学舎跡、連絡道路、医学部のキャンパス等を散策し、九十九里一泊の旅行を行いました。今年はカナダの桑原兄が帰国の予定で、これを機に秋にクラス会が予定されています。なお筆者は千葉市内、亥鼻台の医学部キャンパス等を散策する機会に恵まれ、新旧、時の流れを体感できる昨今を有難いこと思っています。医学部に七ツ塚あり木下闇

(鈴木 豊)

### 昭和30年卒業

3月10日を我ら昭和30年卒組の級会開催日と定めて以来、毎年かかさず楽しい集いを続けている。今年は赤坂東急ホテルが、ご他聞にもれず、不景気対策で宴会部門を閉鎖したので急遽キャピトル東急ホテルに変更して無事終了した。遂に60才台後半に突入した旧友24名が参加、近況報告やら思い出話など、愉快な一時を過ごした。なぜか罹患体験報告が多くなったのも年の為せる業か。互いの健勝を祝し再会を約して散会した。

(原田 直茂)

### 昭和31年卒業(千葉薬三一會)

クラス会は今年も5月9-10日に上諏訪で開かれた。参加者は24名であり、盛会であった。7年に1回行な

循環器領域に貢献する。

医療用医薬品

**トヨタ製薬株式会社**

東京都中央区京橋3-1-2

研究所/大宮・福島 工場/宮城・福島

支店・営業所/全国23ヶ所

わられる諏訪神社の御柱祭を見物し、北沢美術館、ガラスの里美術館などを見学し、世界の文化を勉強した。今年は東京でお互いの健康を確かめ合う予定である。クラス会の全国巡回は、今後も継続され、日本の文化を勉強する予定である。薬学部のさらなる発展を期待している。

(星 昭大)

### 昭和32年卒業

卒業した昭和32年に因んで、ここ数年3月2日に東京日本橋のレストランで首都圏在住の有志が集まりを持っている。今年は14名の参加であった(写真)。

金沢在住の土屋隆君が、本年9月に北陸の温泉でクラス会を開催すべく計画中である。近々案内があるが奮ってご参加を!

(片岡 久男)



### 昭和33年3月卒業

卒業40周年記念クラス会を6月6日九段会館で開催した。卒業生44名全員還暦はクリアーしたものの物故者が3名続き現在41名となっている。当日32名参加、女子10名全員出席で男子脱帽。物故者の黙祷に始まり、41名全員揃って古稀を迎えることを願い乾杯、緊急連絡網の整備、弔慰規定の改訂等の議事のあと、近況報告に移り、予定の3時間はあっと言う間に過ぎた。神保町での2次会には24名もの参加があり、40年前に戻って楽しい一刻を過ごした。

(上野 幸夫)

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役 立崎 隆  
(昭和41年卒)

〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158  
TEL 0434-98-0007

### 昭和34年卒業

平成10年の同期会は、前年の打ち合わせ通り、5月29日(金)一泊で箱根において行われた。会場は、幹事の岩崎君の努力で東京機器厚生年金基金直営保養所滝雲園を格安に押さえることができた。当園は、日銀の保養所には及びもないが、最勝地仙石高原の一角にあり、閑静でなかなかの所である。

出席者は15名、多少額ぶれが固定化する傾向があるが、女性軍は在カナダの高さんを除き6名全員の出席となった。

ゆっくり温泉に入り、いつものごとく談論風発、酒量の造花とともに深更に及んだ。

来年の同期会は、卒業40周年に当たるため、記念会として沖縄で開催することを決定し、翌30日、春の箱根路を散策後、三三五五、家路についた。

(岩崎 吉宏、小川 通孝)

### 昭和35年卒業(珊瑚会)

昨年1998年4月11日(土)、クラスメート20余名が神田三越近くの英國風酒場に集合。このところ毎年一度は会う機会が定着している。今成学部長の苦労話に、大学での今日の変革のすごさが感じられる。相手をかえての雑談に、アットいう間にお別れタイムとなった。本年1月、会沢君の訃報に接しました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。来年(2000年)は、我らは卒後40周年を迎える。幹事はビッグイベントを企画中。一同期待している。

(塩野谷 博)

### 昭和36年卒業

この3月でクラスの全員が還暦を迎えたことになります。昨年は京都で11月28日にクラス会を開きました(出席者17名)。昨年は気候が不順だったために紅葉が遅れていて、「これが京都の紅葉だったのか!!」と思

### 医療用医薬品を提供して120年

私たちは、医薬品を通して人々の健康と幸福に貢献する、「グッド・カンパニー」を目指しています。



鳥居薬品株式会社

東京都中央区日本橋本町3-4-1

ホームページアドレス  
<http://www.torii.co.jp>

をのむほど見事な紅葉でした。この1年間の出来事は、村上泰興さんが宮田専治学術振興会の学術賞を受賞されたこと、中村倫子さんが難病で亡くなられたことでした。みんなで黙祷をして、中村さんのご冥福をお祈りしました。欠席者も含めた近況報告集が好評でした。

(常岡 和子)

### 昭和37年卒業

今年は2年に一度のクラス会の年となりました。いろいろ魅力的な企画案もありましたが、やはりより多くの方が参加できることを考慮して、東京駅近くの日本工業倶楽部で6月12日(土)に開きます。前回の東京での会には遠くは北海道から、27名が集いましたが、今回はそれ以上の級友との再会を期待しています。定年や再就職などの話題が多い年代となりましたが、昔に戻り楽しい一時を過ごしたいと思います。

(齊藤 光高・郁子)

### 昭和38年卒業

卒業後35年を迎えた平成10年4月25日、26日蓼科高原に、19名が集いました。それぞれの違った道を歩んだ長い日々から、学生時代にタイムスリップし夜の更けるのも忘れ歓談いたしました。翌日は、バスをお願いし、高速城址公園をめぐり、諏訪大社では、思い掛けない御柱祭関連行事を見ることもできました。

(水野 保)



### 日本メジフィジックス株式会社

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町9番8号  
Tel 0798-26-7006  
Fax 0798-26-7646

### 昭和40年卒業

3年前に「卒業30周年記念クラス会」を開催して以降、幹事さんからクラス会の案内がない。その間に、長年勤務した職場を退職し、新たな人生を踏み出したり、模索しているクラスメイトがぽつぽつ現れ出した。次回のクラス会は今世紀中は無理かもしれません。ところで五月女(旧姓大野)さんが本年4月よりニュージランド赴任のご主人(外務省)と同伴して同国に赴きました。なお、英國赴任の平野は昨年10月帰任しました。

(平野 武明)

### 昭和41年卒業

昨年6月に3年ぶりのクラス会を開催。前回は温泉だったので、今回は古都鎌倉で寺社巡りをしました。総勢21名が集まり、前日は少し洒落て、鎌倉パークホテルにて立食パーティ。翌日は、成就院の紫陽花から始まり、高徳院の大仏様、鶴岡八幡宮などを散策しましたが、久し振りの再会で、昼食時と解散前の北鎌倉駅前喫茶店でのお喋りに盛り上がった会でした。次回は葉英梅さんの故郷、台湾での開催になる見込みです。

(相羽 通)

### 昭和45年卒業

昭和45年薬学科卒業及び衛生薬学科の合同クラス会が、1月31日(日)に銀座ファゼンダで3年ぶりに開かれました。31名の参加がありました。

大学紛争のまっただ中で学生生活を送った我々は、今再び薬学を取り巻く環境の激動の中におかれています。第一製薬の山口氏と、新潟薬科大学の河野氏に、薬学の現状を話してもらった後、歓談と近況報告であつという間に3時間がすぎてしまいました。

(横山 祐作)

### 労働大臣許可 社団法人 埼玉県薬剤師会 薬剤師無料職業紹介所

登録受付日：月～金曜日(ただし、祝日・年末年始を除く)  
受付時間：9:30～11:30及び13:00～16:00  
〒330-8631 埼玉県大宮市土呂町1丁目50番地4  
TEL 048-653-5261  
FAX 048-652-6060

### 昭和46年卒業

昨年7月、内分泌から乱化学物質に関する厚生科学研究プロジェクトの主任研究者に指名されてから、多くの研究機関とこの問題に取り組んでいる。我々は多くの化学物質を作り出し、便利で快適な生活を享受してきたが、大量生産、大量消費に伴う化学物質の及ぼす複雑多岐にわたる影響も無視できない状況になっている。薬学人の果たすべき役割は大きいと痛感するが、私にとってはまさに公私にわたって生活から乱化学物質となっている。

（中澤 裕之）

### 昭和51年卒業

昨年11月23日、恒例2年毎の同窓会が開かれた。新宿南口ザザンタワー19F、高層ビル街を背景にニューヨークスタイル中華料理、という趣向だったが、集った33名、会が始まれば背景など二の次、話に花が咲きワインの空瓶が乱立し、あっという間の2時間だった。喫茶店の二次会を挟み一部は夕暮の新宿の街へ。

顔を合わせた瞬間は?!と思ってもすぐ昔のままに打ち解けるのは、声だけは変わらないため、と納得したのだった。

（山地 由紀子）

### 昭和54年卒業

平成10年11月23日に約20年ぶりのクラス会を「東京ガーデンパレス」にて開催し30名が集まりました。髪に白いものがまじり学生時代の姿しか見覚えがないと「誰かしら」と思うこともありましたが名乗りあえは20年前にタイム・スリップ。

旧交をあたためあっという間の2時間余でした。次の幹事を決め5年以内に再会することを約束し解散しました。

（今野 礼子・斎藤 典子）



### 昭和55年卒業

ついこの間同窓会をやったと思ったらあっという間にもう3年経ってしまいました。本当に月日の経つのは早いものです。昨年は分析化学教室の会があり今成

教授や戸井田先生の相変わらずのご活躍ぶりを拝見いたしました。同期ではいつも元気な瀬田さんと久々に会ってパワーを充電しました。私たちは今成教授の第一期生ということもあり“長老化”した自分をひしひしと感じ感慨深いものがありました。そろそろまたみんなで会いましょう。

（朝比奈 真由美）

### 平成9年卒業

20歳の時6年という時間は果てしなく感じた。実は短いと分かったのは修士の学位記を受け取った時だった。学部生の時変化なんてそうあるもんじゃないと思った。全ては変わってゆくと知ったのは西村君の結婚を聞いたときだった（おめでとう！）。一足先に社会に出た仲間（みなそれぞれ頑張ってるそうだ）を追いかけ、僕らもようやく社会人になる。

長い助走は、終わったんだね。

いつかまた、みんなで会おうね。

（伊藤 貴夫）

### 平成10年卒業

早いもので、卒業してからもう1年がたちました。4年で卒業し就職した人も、だいぶ仕事に慣れてきたこと思います。一方、大学院に進学した人は、普段の実験に加えて就職活動や学会など、忙しい毎日（一部暇な人もいるようですが）を過ごしています。今年は不況の影響なのか、就職活動も一段と厳しいようです。それぞれが自分の希望の仕事に就けたらいいなぁと思う今日この頃です。

（長谷川 貴志）

### 平成11年卒業

ようやく大学生活が終了しました。長いようで短かった4年間でした。先日、入学した頃の写真を見ました。みんな今よりも若い顔をしていたのがとても印象的でした。

僕個人のことですが、この4年間はとても密度の濃い期間でした。

思えば1年生のころから勉強に追いまくられ、研究室では夜中まで実験を行い、めちゃめちゃ大変な日々でした。しかし、大変な日々があったからこそ、その合間にみんなで旅行に行ったり、バーベキューをしたり、スポーツをしたり……といったことがとても素晴らしい思い出となりました。

そんな時間を一緒に過ごせたみんなにはとても感謝

しています。これからはみんな進む道が違いますが、それぞれ個性的なパワーを生かしていって欲しいと思います。同窓会は僕が幹事になって行うと思うので楽しみにしていて下さい。

(小林 裕明)

### 平成11年度 2年生

時の流れのははやいもので、この間この薬学部に入学したと思ったら、もう1年が過ぎた。この1年間を振り返ってみると、とても短かかったような気がする。それだけ充実していたということだろうか。

日々、この薬学部に合格した時の気持ちを思い出すことがある。あの、自分には何でもできそうな妙な自信。あの気持ちを忘れずに入間味豊かな、良識ある薬剤師、研究者を目指して、今年も突っ走っていきたい。

(都祭 正則)

### 平成11年度 3年生

薬学部の学生として2年の月日が流れました。学生個人の薬学への意識も高まってきたように感じられま

す。クラス内の友人にも目的意識を持ち進んでいる者、不安を抱いている者それですが、一人の人間として成長している姿を見てとれます。こういうことは直接成績や学業といったこととは関係しませんが、一人の社会人として確立していくためには、重要なことだと思います。今年度も我がクラスがどんな成長を見せるのか、楽しみです。

(片桐 大輔)

### 平成11年度 4年生

これまでの3年間、私は解決可能な問題に限定して、その課題を勉強してきました。しかし、これでは現代において直面している医学・薬学の問題と拮抗しません。4月から、いよいよ研究室に配属され解決不能な問題に対する学級生活が始まります。学部生活の最後の1年間で、自分の中にエメラルドの原石を見出したいと思います。原石はそのままでも十分綺麗ですが、それを磨くことで人生という物語の序章ともなるでしょう。

(右京 芳文)

## 支部だより

### ◎ 鹿児島支部

昭和28年卒の吉水経久氏が、昨年、逝去されました。かけがえのない同窓生を失い、残念の極みであります。氏は鹿児島県薬剤師会のリーダーであり、調剤薬局の草分けとして、長年にわたり、医薬分業の進展に貢献されました。私事にわたりますが、その吉水氏の支援を受けて、リタイア後、郷里で調剤薬局をはじめましたが、遠隔の地方都市の小薬局は、ともすれば、激動する情報化社会のなかで、立ち遅れて行くことは免れません。吉水先輩の悩みも、実に、そこありました。このような事情を案じて、東京、大阪在住9同窓生たちが、定期的に最新の医療情報をもたらしてくれ、すでに4年に及んでいますが、同窓のありがたさを身に沁みて感じています。平成8年卒の鈴春江さんと、中央との格差解消を、会う度に話し合っていますが、今後とも、薬友会の皆様のご指導を期待します。

(検見崎 哲夫)

している。母校も、その荒波の中にある。私は卒業生としても、母校の発展に寄与するために、会員相互の資質の向上のために、情報交換の場として、薬友会を活性化しなければならない。この様なときに、東京支部総会を11月頃に、開催する予定である。具体的には、幹事会で決めるが、多くの会員が参加してもらえる様な企画を考えたい。特に、卒業後数十年の活力が満ちた方々の参加で、総会を盛り上げていただきたい。会員の皆様のご支援をお願い致します。

(渡辺 楠)

### ◎ 神奈川支部

本支部の例会は、昨年お休みしました。神奈川の医薬分業率が、社保で50%を越える勢いで伸びており、地域医療の第一線で患者さんのために貢献している私が同窓も仲々時間が取りにくいくらいの原因の一つかなと推測しております。このような状況において、本年に入っても処方箋を出す病院も続々と増えつつあるなか、横浜市大付属病院(城武薬剤師長・48年院卒)を始めたとした大型の広域病院からの処方箋応需体制作りに追われている神奈川県薬剤師会においても永利前会長(19年卒)、北野副会長(28年卒)、岡本常務(22年卒)を始め多くの同窓が活躍しております。今年は、同窓会を開きますので多くの方のご参加をお待ちしております。

(村瀬 一郎)

### ◎ 東京支部

経済の停滞で、医薬関連企業も種々問題をかゝえている。健康指向、介護保険など医療の分野で、薬剤師の参加活動が重要であると指摘されている。また、教育問題では、国立大学の存続に大きな変革が来よう

## 亥 鼻 会

創立 平成5年3月24日  
 会員の範囲 千葉薬専卒 S10年～S26年卒業生有志  
 発起人 岩城謙太郎  
 世話人 岩城謙太郎（代表S15）  
     市橋立彦（S12） 藤沢栄一（S13）  
     宗像小一郎（S14） 井上富夫（S22）  
     崎山晃正（S24）  
 会場・会費 (仙)日本橋俱楽部 昼食会費含み 5,000円  
 会合経過

日 時	講演者	出席者
第1回 5. 3. 24		43名
2 5. 10. 15	山崎薬学部長	57名
3 6. 3. 24	荒木 勉 東京医薬品 工業協会理事	46名
4 6. 10. 17	渡辺教授	48名
5 7. 3. 29	塩崎国夫薬剤師	59名
6 7. 10. 17	畠本薬学部長	38名
7 8. 3. 25	友田共立薬大学長	39名
8 8. 10. 17	鈴木周一前埼玉工大学長	46名
9 9. 3. 18	井瀬日出雄福友の会理事	45名
10 9. 10. 17	今成薬学部長	37名
11 10. 3. 12	村瀬誠墨田区技師	38名
12 10. 10. 16	星 昭夫 国立がんセンター（元部長）	33名
13 11. 4. 23	中村敏夫、 東京都元河川部長	
14 11. 10. 15	五十嵐薬学部長	

なお亥鼻会文集第2号を刊行しますので、会員の出席者、投稿者には、無料で差し上げます。

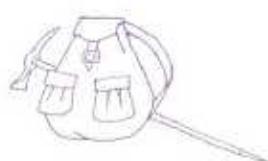


## みのはな山岳会

みのはな山岳会は今年6月で発足40周年を迎える。故萩庭先生の言を借りれば『何となくつぶれかけんとした』時期もあったが、先生の退官記念に丹沢大山へ登ったのを契機として徐々に復活し、こゝ数年は月1回の山行を計画実行するまでになった。現在40周年記念として第1回と同じ奥多摩川苔山登山とこれまでの記録を主とした記念誌の発行を企画しており、川苔登山の後は附近の温泉で一夜ゆっくりと旧交を温める予定である。丁度この時期に萩庭先生が生涯をかけて収集された数万点にのぼる錯葉標本の整理も進行しつつあり、かつて先生が折にふれて語られた『何か文化的・学問的なものと結びついた山岳会への方向』についても運まきながら考えてみたいと思っている。

吉田 智子（昭30年卒）

写真は加賀白山（1998. 7. 11）お花畠が見事だった。





一種生 花材 燕子花  
花器 青釉鉢

## サークル紹介 「華道部」

私達薬学華道部は、毎週火曜日に講堂和室でお稽古を行っています。

部員は少ないですが、その分ていねいに先生がご指導して下さいますし、みんなでお茶を飲みながら休憩したり、とてもアットホームなサークルです。

毎年大祭で華展を開いて、ご好評をいただいています。

本格的に資格をとっている人から単なる趣味として参加している人まで様々なので、花が好きな人は、ぜひ一度のぞいてみて下さい。

(山辺 真理子)



## 石井永元教授の御逝去

平成10年4月24日（金）午前3時40分薬学部元教授石井永先生は、多発性脳梗塞のため永眠されました。お通夜ならびに告別式は、先生がご幼少の時期を過されました逗子市の妙光寺にてしめやかに執り行われました。

前夜9時頃、松本にお住まいのお嬢さんから、少し具合が悪いようなので、明朝一番で水戸の病院に行くとの連絡を受けておりました。しかし、あまりにも突然のことでの御家族の方も間に合いませんでした。

2ヶ月程前私が先生とお会いした時は、車椅子をお使いでしたが、食欲もおありでした。又お目にかかるものと思っておりましたが、それも叶わぬこととなってしまいました。

小雨まじりの御葬儀の間、永い間先生にお世話を頂いたことが走馬灯のように想い起こされました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

石川 勉



研究室、午後3時のコーヒータイム

## ドレスデン300日

渡辺 敏子（昭和51年卒）

ドレスデンはドイツ中東部ザクセン州の州都で、パロック様式で統一された街並みが絵のように美しく、「エルベのフィレンツェ」と呼ばれています。留学先のドレスデン工科大学も歴史を感じる煉瓦作りの重厚な建物でした。

研究室の体制は日本とはほぼ同じでしたので、日常生活での感想を2つのキーワードで表して見ました：Wanderung und Spargel。

ドイツにはハイキングコースがいたるところにあり、研究室旅行等で何度かでかけました。そこは自然の景観がよく保たれていて、道標以外目障りな看板など一つもありません。彼らの自然への思いやりを肌で感じることができました。

一方アスパスガスですが、これは初夏に本当にわずかな期間だけ出回り、その時期はレストランでもスペシャルメニューが用意されます。友達に教わって皮をむきゆでて食べたあの味は一生忘れないでしょう。これこそ日本で失われつつある「季節感」「旬」なのでしょうね。

ドイツの友人達から届く季節の便りが楽しみな今日この頃です。

切です)、2) 勤務先の正式名称と電話番号も忘れずにご記入下さるように、特にお願い申し上げます。

平成11年-12年 主な活動予定

11年5月 会報9号発行

7月 役員会・生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

12年5月 会報10号発行

7月 役員会・総会・生涯教育セミナー

12月 役員会・常任理事会

平成10年 活動報告

3月 新入生入会案内(終身会員84名入会)

5月 会報8号発行

7月 役員会(37名出席)、総会開催

第7回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催

(千葉大学けやき会館)「新しい治療薬を目指してー治療の可能性と限界ー」(講師4名、参加者143名)

12月 役員会・常任理事会(28名出席)

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

1) 終身会員。会費2万円。昭和48年に開設。(現在50%加入)会員名簿を無料で配布します。

2) 寄付(1口2千円から受け付けております)。特に、終身会費が1万円であった皆様のご協力をお願い申し上げます。

3) 会報、名簿への広告掲載にも、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも、同封の郵便振込用紙がご利用頂けます。

名簿委員会からのお知らせ

本年秋頃に、新しい名簿の発行を予定しております。平成7年度名簿の記載内容に誤りのある場合は、同封の連絡カードでお知らせ下さい。住所変更等が生じた場合は、連絡カード(名簿継ぎ込み)またはファックスにて至急ご連絡下さい。(担当:遺伝子資源応用研究室 山崎真巳 ファックス番号043-290-2905)。

連絡の際は1) 氏名のふりがな(索引作成上とても大

終身会員以外の方で名簿の購入をご希望の方は、名簿係(担当:遺伝子資源応用研究室 山崎真巳)までハガキかファックスにてお問い合わせ下さい。

各種委員会名簿

総務委員会 ○石川 勉、原 修、齊藤 和季  
村上 泰興(S36)、立崎 隆(S41)  
野中 浦雄(S42)

澤井 哲夫(前委員長:アドバイザー)

財務委員会 ○原 修、石川 勉、齊藤 和季  
村上 泰興(S36)、立崎 隆(S41)  
野中 浦雄(S42)、藤沢 栄一(S13:  
アドバイザー)

高山 廣光(前委員長:アドバイザー)

名簿委員会 ○齊藤 和季、懸川 友人、山崎 真巳、  
野路 征昭、石川 勉、原 修  
村上 泰興(S36)、立崎 隆(S41)  
野中 浦雄(S42)

石井 伊都子(前委員長:アドバイザー)

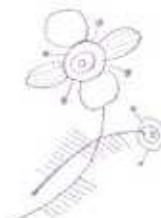
事業委員会 ○矢野 眞吾、千葉 寛、望月 真弓、  
星野 忠次、小椋 康光、中山 祐治  
大川 幸子(S32)、小川 通孝(S34)

石川 勉(前委員長:アドバイザー)

会報委員会 ○澤井 哲夫、細川 正清、戸井田敏彦、  
北島満里子、塚田 英子(大学院生)、  
街風美帆子(大学院生)、小川 通孝  
(S34)、加藤 文男(S47)、角田 範子  
(S52)

畠本 力(前委員長:アドバイザー)

(○印:委員長)



## 学部だより

### 1998年度 卒業生、修了生の進路

学 部 進 学：54名（千葉大学大学院他）

就 職：22名（三共3名、第一製薬、山之内製薬、グレラン製薬各2名、その他）

その他：6名

修 士 進 学：11名（千葉大学大学院他）

就 職：47名（三共4名、公務員4名、第一3名、ゼリヤ新薬3名、島居薬品2名、萬有製薬2名、その他）

その他：4名

博 士 就 職：7名（理化学研究所2名、その他）

その他：1名

### 1998年度 薬学部入学者（男25名、女60名）出身一覧

前期・後期日程入学試験合格者 73名

20名 東京都（女子学院6名、豊島岡女子学院3名、お茶の水大学附属、筑波大学附属各2名、その他7校各1名）

14名 千葉県（船橋5名、千葉、渋谷教育学園幕張、東邦大学付属東邦各2名、その他3校各1名）

9名 神奈川県（桐蔭学園、関東学院各2名、その他5校各1名）

6名 埼玉県（浦和第一女子3名、その他3校各1名）

3名 茨城県（3校各1名）群馬県（3校各1名）静岡県（3校各1名）

2名 栃木県（2校各1名）山梨県（2校各1名）

新潟県（2校各1名）山口県（2校各1名）

1名 秋田県、愛知県、鹿児島県、長野県、高知県、富山県、三重県

推薦選抜合格者 10名

埼玉不動岡（埼玉県）、木更津（千葉県）、栃木女子（栃木県）、新宮（和歌山県）、実践女子学院（東京都）、福島女子（福島県）、高崎（群馬県）、渋谷教育学園幕張（千葉県）、三重（三重県）、田名部（青森県）各高等学校1名

帰国子女選抜合格者 2名

男女 各1名（ドイツ連邦、インドネシアより帰国）

### 「最近の薬剤師国家試験について」

薬剤師になるためには薬系大学の正規の課程を卒業し薬剤師国家試験に合格しなければならないのは、昔も今も変わりません。平成6年に試験問題出題基準が大改正され、現在では240問（基礎薬学60問、衛生薬学40問、法規・制度20問、医療薬学120問）の国家試験が2日間で行われています。試験問題は、有機化学、物理化学、生物化学などの薬学基礎科目からも出題され、医療薬学120問の中には難問もあり、単に基礎的な知識を覚えるのではなく、良く理解していなければ正解が得られないような問題が多くなってきています。丸暗記は比較的短時間で可能ですが、理解するにはかなりの時間が必要で、早くから勉強に取り組むことが合格への必要十分条件になっています。昔のような「2週間あれば大丈夫！」という時代がうらやましく思えます。

このような状況下、学部では各研究室協力して卒論発表会を早めに終了させ、教務委員会を中心に「薬学特別演習委員会」を組織し、OBの宮田満男氏（昭和32卒）に非常勤講師をお願いしてここ数年、学部4年生の指導に当たって参りました。その甲斐ありまして、平成10年度卒業生は、ついに14国立大学中、新卒者合格率全国1位の栄誉を勝ち取ることが出来ました。宮田先輩にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本年度からは、学部教育で培われた基礎力、応用力をさらに強固なものとし、短期集中的に効果的な学習機会を与えることを目的に、山本教授を中心に16名の教官が受験指導に当たります。きっと近い将来「薬剤師国家試験は千葉薬」の伝統が復活することでしょう。4年生がんばれ!!

（文責：薬学特別演習委員会委員長 上野 光一）

### 1998年度学会賞受賞

受賞月日	学会名・賞名	受賞者	受賞業績題目
平成10年5月	歐州植物化学会若手研究者会議（オランダ）最優秀発表賞	山崎 真巳	「シソにおける色素生産の分子生物学的研究」
平成11年3月25日	日本薬剤学会	山本 恵司	第5回日本薬剤学会優秀論文賞 「固体分散系から形成されるナノパーティクルによる難溶性薬物の消化管吸収性の改善」

### 1998年度主催学会

日程	学会名	場所	主催研究室・代表者
平成10年4月25日	第1回医療薬学研究会シンポジウム	千葉大学けやき会館	薬物治療学 医薬品情報学 矢野眞吾 上田志朗
平成10年5月3日～5日	日本植物生理学会年会シンポジウム 「イオウ代謝系の分子エンジニアリング」	北海道大学高等教育機能開発センター	薬用資源教育研究センター 齊藤和季
平成10年5月3日～5日	日本薬剤学会第24回製剤セミナー	千葉県・かずさアガベニアセンター	製剤工学 山本恵司
平成10年9月11日	第2回千葉大学薬学部附属薬用資源教育研究センター・徳島大学薬学部附属医薬資源教育研究センター公開ジョイントセミナー 「次世代に向けての薬用資源研究」	千葉大学けやき会館	薬用資源教育研究センター 相見則郎
平成10年10月23日	International Symposium on Biosynthesis of Phytochemicals for the Future Development of Medicinal Resources	千葉大学自然科学研究科 大会議室	薬用資源教育研究センター 齊藤和季
平成10年11月5日～6日	第24回 反応と合成の進歩シンポジウム	海外職業訓練協力センター(OVTA)	日本薬学会 薬品合成化学 中川昌子
平成10年12月4日	製剤機械技術研究会 SUPAC-MR ワークショップ	千葉大学けやき会館	製剤工学 山本恵司
平成11年1月22日	千葉大学有機合成化学シンポジウム('99)	千葉大学薬学部第二講義室	薬品合成化学 中川昌子

### 1998年度博士学位授与者一覧

#### 甲号（博士後期課程）

##### 氏名 論文題目

(平成11年3月24日)

Piyarom Sujimon

「製剤工程における結晶ラセミ体の物理化学的変化」

戸塚 雄一 「蛍光測定法による多孔性粉体中の薬物の吸着状態に関する研究」

碓井富佐雄 「水難溶性薬物(±)-4-(4-cyanoanilino)-5, 6-dihydro-7-hydroxy-7H-cyclopenta[d]pyrimidineの溶出性改善」

谷口 和夫 「マクロライド2'-リン酸化酵素II型の活性中心に関する研究」

- 二木 紀行 「G タンパク質 ras P2I の原子レベル作用メカニズム—特に分子スイッチ機構と点変異がん遺伝子に起因するその動的阻害について」
- 沖本 優明 「HIV-1 プロテアーゼの原子レベル作用機構に関する量子的化学的・分子動力学的研究」  
Apirakaramwong Auayporn  
「ポリアミン蓄積による細胞死の解明」
- 益子 崇 「NMDA 受容体に対するポリアミンの効果に関する研究」
- Ho Chai Ling  
「シロイスナズナにおけるリン酸化経路セリン全生合成酵素の分子生物学的研究」
- 栗原 美香 「東南アジア産薬用植物 *Mitragyna speciosa* 含有鎮痛性インドールアルカロイドに関する研究」

#### 乙号(論文審査)

- 氏名 論文題目  
(平成10年5月12日)
- 原田 直之 「抗腫瘍薬のプロドラッグ化－水溶性誘導体の設計と合成」
- 石川 淳 「気管支喘息における気道炎症の制御機構についての研究－知覚神経における炎症調節機構を中心とした検討」
- 島山 芳文 「Adaptive gastric cytoprotection に関する mediator と機作の多様性に関する薬理学的研究」
- 伊藤 修正 「内服固体製剤の Preformulation における分子間相互作用に関する研究」  
(平成10年9月24日)
- 渡辺 真紀 「抗真菌抗生物質 RI-331 および Benanomicin A の作用機作に関する研究」
- 松本 和弘 「多孔性結晶セルロースの物理化学的性質および薬物との相互作用」
- 石川 徹 「新規 5-FU 系抗癌剤 Capecitabine の抗腫瘍作用の特徴とその作用発現に関する研究」
- 横瀬 紀子 「Pantoprazole の体内動態と肝薬物代謝酵素誘導作用に関する研究」
- 川島 弘行 「固体状態蛍光測定によるシクロデキストリン固体分散系中の薬物分子状態の検討」
- 鶴岡 明彦 「新規トリアゾール系内臓真菌治療薬の分子設計と合成研究」
- 山本まない 「製薬企業における医薬品情報システムの開発とその活用に関する研究」  
(平成11年1月22日)
- 高橋 郁子 「動物細胞における細胞周期制御機構の解析及びその制癌剤への応用」

---

#### 職員の異動(1998.5~1999.4)

- 平成10年6月1日 平成11年1月1日
- 中山 祐次 助手昇任(膜機能学) 渡邊 敏子 助教授昇任(薬品製造化学)
- 西村 和洋 教務職員採用(臨床化学) 平成11年4月1日
- 平成10年6月30日 荒野 泰 教授昇任(放射性薬品化学、京都大学薬学部より)
- 米持 悅生 助手辞職(東邦大学薬学部薬剤学教室助教授へ) 有澤 光弘 助手採用(薬品合成化学)
- 平成10年7月1日 戸塚 裕一 助手採用(製剤工学)
- 牧野 一石 助手採用(薬化学) 中村 智徳 助手採用(薬物治療学)
- 花輪 剛久 助手採用(製剤工学)
- 平成10年10月1日
- 花輪 剛久 助手転任(山梨医科大学医学部附属病院薬剤部へ)
- 平成10年10月31日
- 川手 智彦 助手辞職(米国 VARIAGENI CS 社へ)

## 第8回千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明記念セミナー）開催のお知らせ

平成11年度の千葉大学薬学部・薬友会生涯教育セミナーを、千葉大学構内正門脇の大学ホール「けやき会館」にて開催します。今年の主題として「健やかな未来と薬学」を選びました。「薬学」という学問は私達の健康の増進と病気に対する薬物治療の両面で関わっています。薬学の進歩は私達の健やかな未来の実現に一步近づきます。ところで、二十世紀末となった今日、新世紀に向けてどのような可能性が見えるのでしょうか。また、どのような健康を脅かす要因があるのでしょうか。その答えは「生涯教育セミナー」の中で見つけて下さい。医療では多剤併用は日常的に行われています。その際の副作用の起こりやすさには個人差があり、この問題を遺伝薬理学的に解明します（千葉先生）。今、最も話題を集めているファイザー製薬の薬を含めて、企業の創薬活動最前線を紹介します（北浦先生）。環境問題に目を転じると、内分泌擾乱物質は本当に人類を蝕むことになるのでしょうか（井口先生）。もし癌と知らされたら、癌治療の最前線を知りたいと思いませんか（藤澤先生）。宮木高明記念講演では薬剤師業務の将来を考えます（中村先生）。どうぞこの機会に、多くの方々がセミナーにご参加下さい。ご案内申し上げます。

なお、本年度からの特別企画として、いくつかの卒業年次の皆様を順次、「生涯教育セミナー」にご招待致します（但し、ミキサー参加費は別途徴収させて頂きます）。下記のご案内に注意して下さい。

### 1) 主題「健やかな未来と薬学」

### 2) 演題と講師

薬友会会長挨拶 五十嵐一衛（千葉大学薬学部長）

1. 「薬物相互作用と肝代謝」

千葉 寛（千葉大学薬学部教授）

2. 「創薬の最前線—創薬とQOL—」

北浦良彦（ファイザー製薬（株）中央研究所所長）

3. 「内分泌擾乱物質の野生動物に対する影響」

井口泰泉（横浜市立大学理学部教授）

4. 「癌治療の最前線」 藤澤武彦（千葉大学医学部教授）

5. 宮木高明記念講演「医薬分業を巡る今後の課題」

中村 健（日本大学薬学部教授）

3) 日時：平成11年7月17日（土）13:00から18:00（この後、ミキサーを開催する予定です）

4) 場所：千葉大学大学ホール（けやき会館）

千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内（JR西千葉駅北口より南門経由で正門方向へ徒歩7分。または京成電鉄みどり台駅より正門経由で徒歩6分）

5) 参加予約の方法：同封の申込用紙に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振込み下さい。（参加予約締切：平成11年6月30日（木））

郵便振替口座 0015-5-551796 千葉大学薬友会

6) セミナー参加費：2,000円（予約時） 3,000円（当日）

7) ミキサー参加費：2,500円（予約時） 3,000円（当日）

8) 本セミナー参加者には日本薬剤師研修センターより3単位が認定されます。

9) 連絡先：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学薬友会事業委員会（担当 矢野真吾）

TEL/FAX 043-290-2994



生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒後35年の1964年（昭和39年）、卒後45年の1954年（昭和29年）、卒後55年の1944年（昭和19年）の方々、および1933年（昭和8年）以前に卒業された方々をご招待致します。該当する皆様には薬友会報とともに「ご招待状」を同封しました。この機会には是非母校に足を運ばれ、その変貌振りをご覧頂くとともに、旧友と示し合せてセミナー終了後のひとときもお楽しみ下さい。

### 編集後記

今年は学部長（薬友会会长）交代の時期にあたり、新前学部長のご挨拶を頂きました。国立大学制度の大改革が現実化しつつあり、さらに学部独自の重大な問題を抱えて奮闘された前学部長のご苦労の一端をご理解頂けると思います。特集として、現在の薬学部学生の気質と学園生活を取り上げました。小学校から大学まで教育環境の大きな変化、悪い面では荒廃化が、社会の関心を集めています。大学を離れた多くの会員にとって、千葉薬学生の現状は関心の高いものだと思います。特集内容についてのご感想など頂ければ幸いです。名刺広告は会報発行の資金源の一つですが、昨年度は事情により中断しました。今年度の復活は協力企業においての会員諸氏のご尽力が大きく、厚く御礼申し上げます。

### 会報委員

澤井哲夫（委員長）、戸井田敏彦、細川正清、北島満里子、小川通孝（S34）、加藤文男（S47）、角田範子（S52）、塚田英子（院生）、街風美帆子（院生）、畠本 力（前委員長、アドバイザー）